



## 「丙午」

校長 三浦 伸之

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくおねがいいたします。みなさんは年末年始、少しゆっくりできましたでしょうか?こちらもお正月には雪が降り、うっすら積もったようですね。初詣や親せきの集まりなどでお出かけされた方、大丈夫でしたでしょうか。私はいつものように、実家のある北海道でお正月を過ごしました。東北は大雪で大変なようですが、北海道は例年より雪が少ないお正月でした。そんな実家での大晦日。朝、起きてリビングに行くと、なんとキタキツネが庭で丸まって寝ているではありませんか。実家は空知平野にあり、山がある訳でも、森がある訳でもないのに、私が子供の頃から何処から来て、道の真ん中にちょこんと座ったりしていたのですが、庭で寝ている姿は初めて見ました。しかも雪の中で、丸まった姿の上にはどんどん雪が積もっていきます。(写真1) 寒くないのか心配になりましたが、どうやらキタキツネは、生え変わった冬毛が太く、空気をたくさん含んで体温を外へ逃がさないようなっていることに加え、外からの厳しい寒さも防ぐことができるらしいのです。また、足の裏の肉球も冬毛で覆われていて、雪の上でも冷たさを防ぎ、滑らないようになっているらしいですよ。そして、寝る時にはフサフサの尻尾で、あまり毛のない顔を隠して寒くないようにしているとか。更に、体に雪が積もることによって、体温が外に逃げないようにもしているそうです。かまくらみたいですね。どのくらい暖かいのか1度触ってみたいと思うのですが、キタキツネには「エキノコックス」という寄生虫の卵が付着していることがあるので、北海道では絶対にキツネに触ったり、呼び寄せたり、餌付けすることはしてはいけません。昔「北の国から」というドラマで、「ルールルルル」と言って、田中邦衛や子役たちがキタキツネを呼び寄せていましたが、今はやってはいけない行為です。みなさんも北海道でキタキツネを見かけたら、遠くから温かく、そのかわいい姿を見守るだけにしてくださいね。

さて、今年は丙午。前回の丙午は昭和41年(1966年)。「丙午生まれの女性は気性が激しい。」という理由で、出生費が前年より25%も減少したことで知られています。これは江戸時代に流行した物語「八百屋お七」(好きな人に会いたくて放火事件を起こし、火刑に処されたとされている。このお七が1668年の丙午生まれ)という物語の影響ですが、もちろん迷信。現代ではむしろ「丙(ひのえ)は陽の火」「午(うま)も陽の火」を表し、陽の力が最も強まることを意味するとされていることから、情熱・活力・変革の気運を高めるとされており、新しことに挑戦したり、物事を前進させたりするには最良の年とされています。1・2年生は次の学年へ、3年生は人生の大きな選択へ、勇気をもって挑戦をしてください。そして、この学校だよりをお読みになっている全ての人にとって、2026年が幸せで良い年になりますことをお祈り申し上げます。



(写真1)

